

「容器廃棄物回収システムの提案」概要（記者発表資料）

## 容器廃棄物回収システムの研究目的

### 1 背景

「関西広域連携協議会」では、地球温暖化をはじめとする環境問題の解決に向けた実効性のある取り組みを推進するために環境部会を設置し、広域連携に貢献できるテーマを取り上げ検討を進めている。この容器廃棄物研究ワーキング・グループもその一環として、昨年度から2ヵ年かけて缶、ペットボトルなどの容器廃棄物の研究を進めてきた。

そして、研究を進めるにあたっては、

関西地域の散在性ゴミ対策  
容器廃棄物の資源化・減量化

容器廃棄物の回収負担のあり方、等の項目を解決すべき課題として研究を進めた。

### 2 研究の目的

関西地域においても散在性ゴミの問題は市町村や府県の境界を越えて長年の懸案事項であり、これまでからも多くの角度から研究がなされてきたが、今回は容器包装リサイクル法が完全施行して3年を迎え、より広域的で効率的な取り組みが構成団体から求められるようになってきた。

そこで、上記の課題を解決する上で有効であると考えられる、新しい容器廃棄物回収システムの研究を行うことを当ワーキング・グループの目的とした。

### 3 研究の進め方

上記の目的を達成するため、容器廃棄物研究ワーキング・グループでは、まず容器包装リサイクル法を取り巻く環境や容器廃棄物の回収に関して新しいシステムを既に導入している団体について調査を行ったりして、容器廃棄物の回収等に関して現状分析を行い、その上で、それらの分析結果を評価し、関西広域連携協議会として容器廃棄物回収システムの提案を試みた。また、提案した同システムを実効ならしめるために、導入イメージも併せて提案することにした。

## 容器包装リサイクル法の功罪

平成7年6月、循環型の新しいリサイクル社会の構築をめざす「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律（容器包装リサイクル法、以下「容リ法」という）」が制定された。

この法律は、家庭から一般廃棄物として排出される容器包装廃棄物のリサイクルシステムを確立するため、「消費者が分別排出」し、「市町村が分別収集」し、「事業者が再商品化（リサイクル）」するという各々の役割分担を明確にしたことや、再商品化に要する費用の価格への反映を明文化したことにより、環境コストの内部化を明示したこと。さら

には、焼却処理からマテリアルリサイクルの優先が明確になったことなどが評価されている。

他方、同法は多くの問題点も指摘されている。それを端的に表現すれば、容器廃棄物を処理する役割分担に基づく費用負担が適切ではないことである。

例えば、市町村が分別収集を実施する場合、収集費用の増加、資源化施設などに係る経費の増加、指定法人に委託する場合には市町村負担分の再商品化委託経費などがかかってくる。一方、事業者の義務は、逆有償分の再商品化費用を一部負担するだけであり、関係事業者の容器回収に対する関与は非常に小さいと言わざるを得ない。

ある環境NPOの調査結果では、市町村が分別収集し、運搬、保管する費用は製造事業者が負担する再商品化費用の約2倍と分析している。

## 容器廃棄物回収システムの分析結果

### 1 分析の結果

拠点回収に代えて新しい視点で容器廃棄物回収システムを導入している岐阜県の穂積町や群馬県の安中市を視察調査し、さらに諸外国の先進事例や国内の導入事例を分析した結果、関西地域で導入すべき容器廃棄物回収システムは、以下のような結論に至った。

### 2 分析の結論

現状、多くの自治体で実施されている拠点型の回収のシステムに比べて、デポジット制度( )など何らかのインセンティブを働かせるシステムが有効であることは効率性の面から明らかである。その場合、預り金方式のデポジットには閉鎖空間でかつ識別シールを貼るなどの作業を必要とすることなどの課題が残るが、回収報奨金方式システムはシールを添付するなどの手間やポイントの管理を磁気カードが代行してくれ、行政(市町村)の負担や業者(ボトラー、小売店)の回収経費を低減し、最終的に消費者の利便性を高めるシステムとして期待できること、など前者に比べて優位性が高いといえる。以上の意味で以下の新しい容器回収システムの導入を提案する。

#### デポジット制度

デポジット制度は、製品本来の価格に預託金(デポジット：deposit)を上乗せ販売し、製品の使用後に所定の場所に返却された際に預託金を返却することにより、その回収の促進を図る制度である。現在デポジットと称する場合には、本来の預託金を賦課する方式と、磁気カード等にポイントを貯めていく回収報奨金方式の2種類の方式がある。

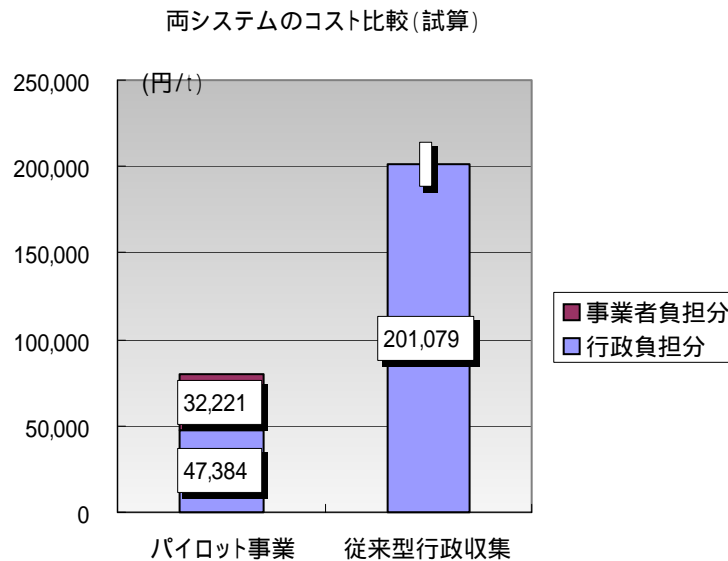
### 3 提案システムの概要

回収報奨金方式システムは多くがRVMと言われている。RVMとは Reverse Vending Machine の略称で、戻す(Reverse)自動販売機(Vending Machine)により、空き飲料缶やペットボトルの分別・回収を行うシステムである。RVMに容器を入れるとセンサー等で容器の種類を見分け、分別・減容して回収する。また、利用者である住民には磁気カードにポイントを加点することやクーポンの発券を行い、経済的なインセンティブをもってリサイクルへの自主的な参加を促すことが出来るなど利点が多い。

#### 4 従来型システムと新システム（RVM）のコスト比較（試算）

兵庫県出石町で実施されたパイロット事業の数値を基にした拠点回収を中心とする従来型システムとの比較によると、特に利用が大幅に伸びているペットボトルの処理コストにおいて、新システムが従来の行政収集よりも安価となった。ペットボトルは近年の資源化品目の中でも食品トレーやその他プラスチック製包装容器などと並んで収集運搬効率が悪い品目である。

今後ペットボトルの分別回収に着手する市町村においては、新しい容器回収システムを採用することで事業コスト（行政負担分）を軽減する可能性が大きいと言える。



### 関西広域連携協議会から提案する新しい容器回収システム

以上のことから関西広域連携協議会として新しい容器回収システムについて、2つの提案をする。

#### 提案1 回収報奨金方式の空き容器回収システムの概要

詳細は本紙27、28頁参照

#### 提案2 預り金返却方式の空き容器回収システムの概要

詳細は本紙30頁参照

### 提案とその導入イメージ

#### 提案1

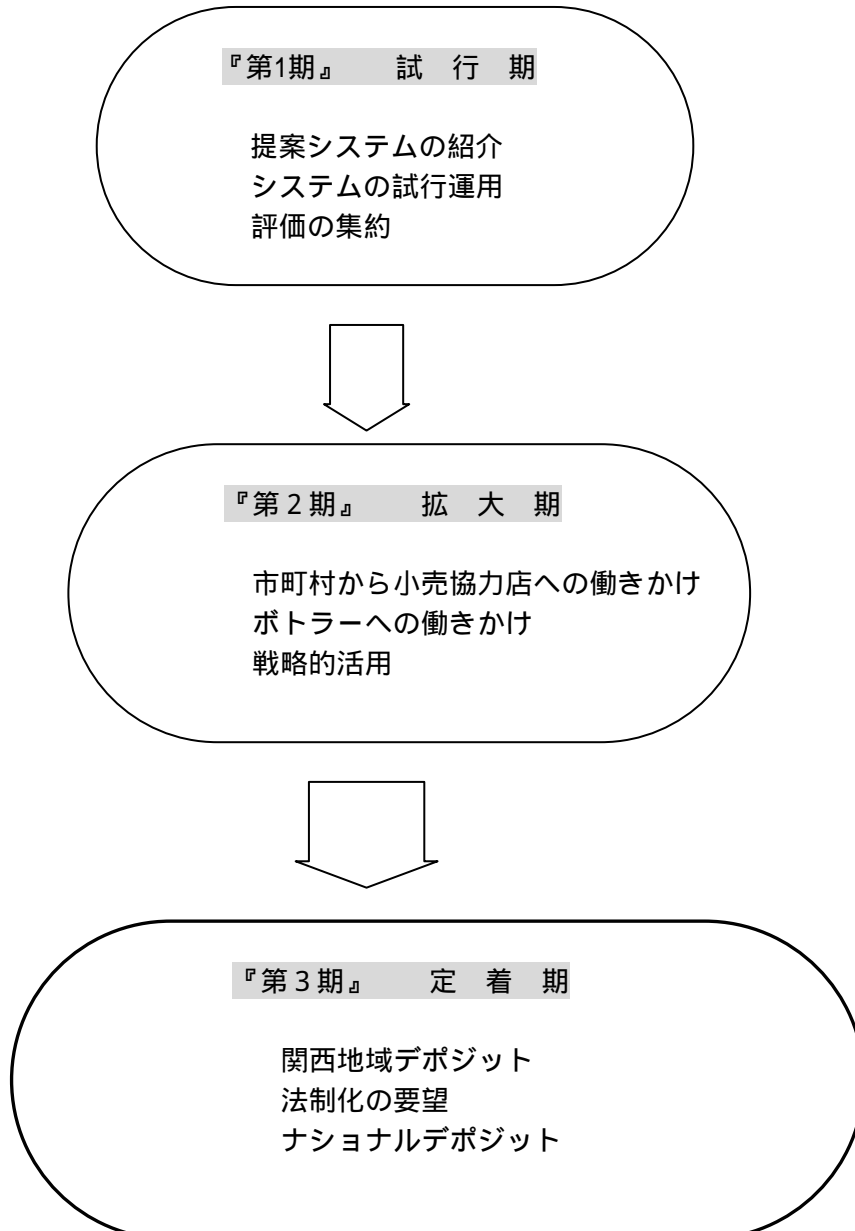
従来型の回収システムに比べて多くの利点を有することから、磁気カード等を活用した回収報奨金方式の空き容器回収システムの導入を提案する。

そして、その導入にあたっての導入イメージも併せて提案する。

## 「提案システムの導入イメージ」

関西広域連携協議会としては、まず構成団体の環境関連イベントにおいてパネル展示やデモ実演を通じて提案システムを紹介したり、構成団体のパイロット事業などで同システムが試行運用されるように働きかける。

そして、同システムの評価を行い、気運の醸成を行いながら第2期、第3期をめざす。



### 提案2（屋内に特化した場合の提案）

缶、ペットボトルに比べて環境負荷が格段に低いことから屋内においては、紙容器を使った、預り金返却方式のデポジットシステムを早期に導入すべきである。

当該システムはそれ自体が極めて単純であるので導入イメージは省略する。

## システムの展示案内

今回提案するシステムの中心となる容器廃棄物回収機を明日、6月11日開催される  
関西広域連携協議会理事会（関西サミット）会場でも展示します。

### 記

- 1 日 時 6月11日（水） 13：30～
- 2 場 所 帝国ホテル大阪 本館3階 エンパイヤルーム前室
- 3 内 容 （1）回収報奨金方式（RVMシステム）の容器回収機  
（2）預り金返却方式の容器回収機

以 上